

まちの姿6 生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち

施策6-① 生涯にわたる学びの充実

施策6-② 芸術文化・スポーツの振興

施策6-③ 歴史・文化の理解と継承

## 施策6-① 生涯にわたる学びの充実

### 目指す姿

誰もが生涯を通じて学べる環境が整っており、一人ひとりが自分にあった学びを楽しめるとともに世代を超えた交流活動が行われています。

### 現状と課題

施設の老朽化に伴い、新設図書館の整備と市民センター内のリノベーションを行います。市民の認知度が低いことが課題とされていた市民活動支援センターを市民センター内に移動し、より市民活動の充実を図ることが必要です。

市内団体の文化及びスポーツ等の活動の場として、公民館、体育館・グラウンド、地域センター・地区センター、学校施設開放等により、活動の推進を図っていますが、更なる利用を促進するため、施設利用料の支払方法の改善といった利用者の利便性を高めるしくみが必要となっています。

公民館では、子ども、高齢者、子育て世代、外国人、障がい者等の多様なニーズに対応した事業や大学、民間事業者等と連携した事業を展開していますが、利用する世代の高齢化や固定化が進んでいる中で子ども・若者や現役世代のニーズを把握し、多世代の利用を促進する必要があります。

市民センターの改修後は、人生100年時代に向けて、ライフステージに応じた多様な生涯学習の場が必要であり、そのために様々な団体の活動の場や市民と団体の交流の場づくり、団体間の連携や支援などを通じて、市民の自主的な活動を支援することにより生涯学習及び市民活動の充実を図る必要があります。

狛江市における市民1人当たりの蔵書冊数は人口同規模市等と比較して少なく、市民アンケート、市民ワークショップ等では蔵書の充実を望む意見が多くあり、市として望ましい蔵書の規模や構成、適切な蔵書方法の実現を図ることが必要です。

今後の図書サービスについては、様々なライフスタイルや年代に応じて多様な市民ニーズがあることから、新設図書館や改修後の市民センター図書コーナー、各図書室、電子図書館等の施設・機能を有効活用することのできるネットワーク機能を実現し、市内全域の図書サービスを充実させることが必要です。

## 施策6-② 芸術文化・スポーツの振興

### 目指す姿

地域資源を活かした芸術文化に触れられるとともに自身にあったスポーツ活動に親しみ心身ともに健やかな生活を送ることができています。

### 現状と課題

市民ホールは令和4年に改修工事を行い、客席や内装のリニューアル等を行い、リニューアルオープン後の稼働率は以前より高くなっています。また、えきまえ広場やぼかぼか広場を活用したイベント、駅前ライブ、学校公演事業等の音楽や芸術文化に触れる機会を創出しています。市民の生きがいづくりや豊かな心の育成、芸術文化の振興を図るため、より一層の取組が求められます。

公民館では、コロナ禍以降の利用者は回復傾向であり、いべんと西河原や中央公民館のつどいを開催し、日々の活動の成果を展示やコンサートで発表することで利用者同士や市民との交流を深め、芸術文化活動を推進するとともに映画会を開催するなど公民館の事業を通して芸術文化に触れることができる機会を提供しています。利用団体の自主的な活動を支援するとともに、活躍の場を提供する必要があります。

スポーツを楽しむきっかけをつくり、世代を超えて、誰もが、いつでも、どこでも気軽にスポーツを楽しむことができるよう、生涯スポーツの推進を図り、仲間づくり、体力向上や生きがいづくりにつなげるため、各種スポーツ大会や教室を実施しています。  
地域のスポーツ関係団体と連携するほか、協定を締結している研究機関やスポーツ団体についても連携した事業を実施しています。  
体育施設の利用者数がコロナ禍前まで回復せず、スポーツ活動につなげる取組が必要です。

旧粕江第四小学校跡地は、小学校としての機能を終えてから体育施設として20年間暫定活用されてきましたが、校舎棟については、施設の老朽化だけでなく台風による浸水被害等により取壊しが必要となっています。また、多摩川住宅二号棟の建替えもあり、子育て世帯、児童数の増加が見込まれることから市内で貴重なオープンスペースである公共公益地区として必要な機能や規模等の整備に向けた検討を進めています。

現在の体育施設機能を維持や室内温水プールを整備するとともに、震災時における地域の防災機能として、避難所及び災害時集合場所を確保することとしています。さらに、プールについては、今後の学校プールの在り方等を整理した上で、学校利用も可能とすることも検討します。

また、放課後児童対策としての子どもたちの居場所を確保することや高齢者が地域で安心してくらすようこまほっとシルバー相談室の移転についても検討しています。

その他にも施設利用者や地域に対する利便性、快適性を高めるような付加価値を創出するための民間活力の導入についても検討を進める必要があります。

## 施策6-③ 歴史・文化の理解と継承

### 目指す姿

狛江の歴史や残された文化財に触れることができ、ふるさとへの愛着を育むとともに、歴史や文化が次世代に継承されています。

### 現状と課題

小・中学生に文化財に関するガイドブックやパンフレットを頒布するとともに、小学校6年生には、狛江の遺跡と古墳に関する出前学習を実施しています。

古民家園では、子どもを対象にした伝統文化や生活文化の体験教室を実施し、子ども達が文化財や伝統文化等に触れる機会を提供しており、大人についても、文化財の現地公開や文化財に関する講座・講演会を実施しています。また、狛江の歴史や文化財に関する刊行物を作成して情報発信をしているものの、より市民や市外の方への周知や、活用方法について検討していく必要があります。

狛江の歴史や文化財に親しむ機会を提供しているものの次世代に継承する担い手を育成するまでには至っておらず、文化財に関する講座等を実施する中で、狛江の歴史や文化財に深く関心を持つ潜在的な担い手の掘り起こしが必要です。

また、文化財等の保管場所について検討を進めるとともに、文化財等の効果的な活用の拠点となる展示場所についても具体的な検討が必要です。

古墳を活用する施設の1つとして公園整備を進め、猪方小川塚古墳公園、亀塚古墳公園、土屋塚古墳公園の3つの古墳公園を開園し、公園の開園に合わせて古墳を巡るウォークラリーを企画するなどの活用を進めています。

また、古民家園については、伝統文化や生活文化を体験する教室等を実施するだけでなく、ロケーションをいかした能楽の鑑賞会や箏曲の演奏会等を実施するなど、狛江の魅力を伝える場としても活用しています。

文化財建造物については、日常的な管理の中で状態を確認し、修繕の必要性を見極めるなど、次世代に良好な状態で継承できるよう、適切な管理と整備を進める必要があります。